

## 第01回

- 講演者：久村 裕憲 (静岡大学理学部)
  - 題目：エンドの幾何と連続スペクトル内の固有値の非存在
  - 日時：平成17年 5月 20日(金) 16:30 ~ 17:30

$(n)$  次元ノンコンパクト・リーマン多様体の「エンド」において次の 2 つの場合に、固有関数の増大度を調べ、それぞれの場合に連続スペクトル内に固有値が存在しないことを示す。曲率を  $(K)$  で表すとき

- (1)  $(K+1=o(1/r))$
- (2)  $(-a_n/r^2 \leq K \leq b_n/r^2)$

また、(1) の条件がシャープであることを示すために例を構成する。この 2 つの条件は、今まで知られていた条件を大幅に改善するものであり、特に (1) の場合は決定的と言える。



.lg-outer.lg-pull-caption-up.lg-thumb-open .lg-sub-html {bottom:80px;}

6 images

[<6>]

From:

<https://wiki.ma.noda.tus.ac.jp/rs/> - (旧)理工学部 数学科

Permanent link:

<https://wiki.ma.noda.tus.ac.jp/rs/seminar/2005/001>

Last update: **2017/11/17 18:01**

